

# 平成2年国勢調査 結果概要

## 『生産年齢』減り、『老年』増える！

平成二年十月一日現在で、全国一斉に実施された国勢調査。集計結果については、三年五月に速報の数値で皆さんにお知らせしましたが、その後、総務庁から確定数値が公表されました。今回は、この確定数値をもとに市の人口や世帯数などの概要をお知らせします。

### 年齢別人口は

「さかな」の形

人口六八、一九五(男三一、九二〇、女三六、二七五)、世帯数二一、四三六。これが確定数として公表された大館市の人口と世帯数です。前回(昭和六十一年)と比較して人口は三千五百九十九人減少、世帯数は百五十六世帯増加しています。県内の市町村で人口が増加したのはわずかに六市町村(秋田市、本荘市、天王町、雄和町、岩城町、大潟村)でした。県の人口も減少しています。しかし世帯数は増加傾向にあって、一世帯当たり人員は三・四二人となっています。



百九十九人減少、世帯数は百五十六世帯増加しています。

県内の市町村で人口が増加したのはわずかに六市町村(秋田市、本荘市、天王町、雄和町、岩城町、大潟村)でした。県の人口も減少しています。しかし世帯数は増加傾向にあって、一世帯当たり人員は三・四二人と

なっています。

さて、市の人口を年齢別にみると、生産年齢人口(十五歳)

六十四歳)が減少し、老年人口(六十五歳以上)は前回より約二千人増えています。平均年齢は四十一・一歳でした。グラフにすると、二十代の人が少ないのが特徴的です。グラフを横にしてみてください。魚の形をしているように見えませんか？

### 就業者数でトップは

卸売・小売業、飲食店

市の労働力人口は三四、七四五、うち就業者数は三三、五八三(男一八、六六九、女一四、八三四)となっています。就業者数を年齢別で見ると、男女共四十〜四十五歳が最も多く、産業別では卸売・小売業、飲食店で働いている人が最多。続いてサービス業、製造業の順です。大館市では、農林業など一次産業への就業割合は毎回減少し続けていて、二次・三次産業が増えています。特に三次産業は五十年以来過半数を占めています。秋田県では今回初めて三次産業が五〇%を超えました。

## 年金・簡保 還元融資

こんな施設に 利用されました

市では、大きな事業を行う際に必要な財源を、国(郵政省など)や銀行などから借りています。平成三年度には、厚生年金・国民年金積立金還元融資(二億九千六百万円)、郵政省の簡易生命保険積立金還元融資(三億八千五百万円)を受けて、次の事業を進めました。

### ◇簡易生命保険積立金

還元融資によるもの

- 。公園新設整備事業 (二ツ山総合公園、小柄沢墓地公園、釈迦内ふれあい公園)
- 。道路橋梁整備事業 (狐台・長根山線、二井田大橋)



釈迦内公民館



完成間近な総合福祉センター

### ◇厚生年金・国民年金積立金

還元融資によるもの

- 。農道整備事業(雪沢)
- 。公共下水道事業
- 。総合福祉センター建設事業
- 。高齢者及び障害者住宅整備資金貸付事業
- 。釈迦内公民館改築事業